

5月26日（水）西濃総合庁舎において研修会を開催しました。

研修① 講話 「学校経営参画について」

講師 西濃教育事務所長 谷本 龍馬 様
(代理) 学校人事チーフ 立川 建之 様



西濃教育事務所では、学校のいいところをたくさん見つけて学校へ伝えていき、自信を持ってがんばってもらう方針で進めている。

学校経営はチームワークである。職員のチームワークがよくないと子どもは育たない。職員の力量の差が大きいと、その差を学校としてどれだけ支え合って力を発揮できるかが、チームワークづくりの鍵となる。学校の中では、学校管理や予算の面で事務職員が頼りになってくる。校長や教頭は強そうに見えて実は不安で心配が多い。学校を支えているのは事務職員の私なのだと、職員のライフスタイルを支えているのは私なのだという自覚・自信を持って仕事をしてほしい。

昨年度標準的職務内容についての通知が出された。学校事務職員は標準的職務一覧表以上の仕事をしている人が多いと感じる。学校の教育活動を推進していくためには教員と事務職員がお互いの隙間を埋めあい築きあい共に仕事をしてほしい。

1 学校経営 学校の全教育活動を通して学校の教育目標が具現されることが究極のねらいとなる。全ての教職員が校長の経営方針に基づいて協調し、和気あいあいとした雰囲気の中で、一人一人の校務分掌をやり切っていくようにするためにはチームワークが要となる。

2 B=F (E) Bとは教職員の『言動(行為)』、Eとは教職員のおかれた『環境』、Fはファンクションである。『人間の行動様式は、その人のおかれた環境のあり方によって大きく左右される』という意味。自分の置かれている学校の環境は今まで勤務していた学校とは違う価値観がある。その中にその学校が築いてきた良さがある。現在の環境を受け入れ、職員間のコミュニケーションにより学習していく。

(1) 職員間のコミュニケーションは良好だろうか？

事務職員の分掌事務は、一人一人の教職員の生活に直結している。それを利点として事務職員がコミュニケーション作りの中心となれるように。

(2) フォーマルな場での事務職員の出番は？

職員会に参加している事務職員は増えてきている。また運営委員会の参加もある。学校を動かすためには3M (man, money, material) が必要。お金の部分で直接関わっ

ている事務職員が、フォーマルな場でアイデアを出す力量を備えていくべきである。また、一人一人の先生と、『これからのライフスタイル』について語り合い、知って得することもアドバイスしてほしい。

- 3 危機管理意識 全教職員が児童生徒の側に立って、生命を守り、緊急対応ができるように日ごろから共通理解と共通行動ができるようにしておきたい。特に、職員室にいる者でしか対応できない場合も多い。先生と一緒に研修しながらできることをしてほしい。

全員の先生を冷静な目で見られるのが事務職員。そこで先生の良さを見つけてほしい。ほかの先生が気付いていない良さを見つけて管理職に伝えるとコミュニケーションの流れができる。学校経営に参画するということを大上段に構えると難しく感じるが、そんなところからも実は学校経営に参画しているといえる。職員の雰囲気をよくするという動きを作してほしい。

研修② 事務指導

管理調整担当 主 任 渡辺 美穂 様
学校人事担当 課長補佐 後藤秀太郎 様

6月3日メールにて配信済み

研修③ 研究推進委員会 研修計画について

研究推進委員長 大垣市立東小学校 末守美津子

今年度の研究テーマは、「子どもたちの豊かな育ちを支援する学校事務」、研究推進委員会の方針は、長期研修計画立案と推進、主な活動内容は、研修計画の推進である。

これからの事務職員には、「教育目標を達成するために、専門性を生かしながら、学校運営に積極的に参画していく」ことが求められていると考えた。研修計画を作成するにあたって、「学校の教育目標具現に向けて役割を果たす事務職員」をめざす姿とする。

これらをふまえ、研修でつけていきたい力を大きく3点とした。

- 1 実務力…「学校事務に関する全般的な知識技能」「専門的な法規知識への精通」「適正かつ合理的な事務処理能力」といった力であり、この研修をとおして、「特色ある学校づくりへの寄与」「学校徴収金に関する適切な指導・助言」「法令に基づいた確実な事務処理」などができることをめざす。
- 2 対応力…学校を取り巻く様々な状況の変化に創造的かつ柔軟に対応する力であり、この研修をとおして、「円滑な学校運営を進めることができる」「適確な情報収集提供により信頼される学校づくりに寄与する」ことをめざす。



3 人間力…豊かな人間性や社会人としての一般教養・地方公務員としての基本姿勢・職務への高い意識のことであり、この研修を通して「豊かな人間性や社会性・常識・対人関係能力など教育にかかわる者としての資質を高めることをめざす。

今年度からの3年間は、「対応力」に重点を置いた研修とする。

「実務力」については、毎年の教育事務所の実務指導や研修指導員会の実務研修により、正確な事務処理をめざし実力アップを図る。「人間力」は毎年の教育事務所長様の講話により、自分の今の状況を振り返り、自分にできることは何なのかを考え、実践につなげれば、職務への意識も高まると考える。

研修計画の初年度ということで、財務の分野を中心に研修を計画。教育活動の裏付けとなる財務の視点から、学校全体を見渡し子どもたちの育ちを支援することができる力量アップをめざす。

- ・22年度…学校財務マネジメント研修
- ・23年度…今年度の研修を生かした財務の研修
- ・24年度…これからの学校事務について教育支援に向けての研修

この3年計画とともに事務部経営案については継続して行う。研修計画と平行し、各自の実践を中心とし、呼びかけや資料提供をし、研修会当日は2、3人の経営案の取組を含めた実践の発表をする。

会員の実践が伴い、資質向上につながり、学校運営に積極的に参画し、ひいては子どもたちの豊かな育ちを支援できることを願い、研修計画をたてている。ぜひご協力をお願いしたい。

諸連絡

①総会

会長あいさつ

大垣市立北中学校 村上 博章



昨年10月に「市町村立小中学校事務職員の標準的職務内容」が県教委から示された。県としての標準であり、実際にその内容での運用を考えたとき、それぞれの市町に即していない部分もある。市町が求める教育のすがたを考慮に入れながら、事務職員会で、各市町教育委員会や校長会などと連携を取りながら独自の標準的職務内容を求めていくことも必要である。決められた職務だからではなく、何が必要な職務なのかを自らの立場と視点で考えていくことが大切である。標準的職務内容の通知や、西濃研究推進委員会の提示した長期研修計画を一つの足がかりとして、次へ進んでいけるように歩みを続けていきたい。

一人の小さな動きが、みんなに広がっていけば大きな渦となり、周りを巻き込んで動かす大きなうねりにもなる。研修指導委員会や情報担当委員会の活動を活かしていただき、仲間と安心してがんばっていける西濃事務職員会になることを願っている。

皆様方のご協力により平成20年度・21年度の2年間にわたり、会長としての活動を進めることができたことについて、今更ではありますが、お礼申し上げます。ありがとうございました。

来賓ごあいさつ

西濃校長会長 大垣市立西中学校長 白鳥 正忠 様



最近使われる「学校力」の定義を、私は、「人・環境・地域」を総合した力として捉えている。「地域」に見守られて学校がある。事務職員の方には、「環境」の面で特に世話になっている。限られた予算の中で苦慮され、有効に使っていただいている。「人」=子どもへの影響は、主は教員であるが、日常的に、教員以外の全ての職員も子どもの人間性の育成に大きく作用している。子どもへ作用

する全ての力が学校力であると思うので、ぜひ皆様のご協力をいただきたい。

今年度、皆さんの仲間から県下初の教頭になった方がみえて大変うれしく思っている。このような道が開かれたということで、今後、学校経営に皆さんの力を直接的にお借りできる機会があればと思っている。また、事務職員の方には、総括する立場の方も必要だと思っている。職務上一人ということで孤独な仕事をしていただいている。特に市町が変わると慣れるのに大変である。その意味で、相談、指導的立場の人がいていただけるといいと思う。

それぞれの校長の経営ビジョンにのっかって、今後ともご支援をお願いしたい。

新会長あいさつ

大野町立大野小学校 石原 明美

今年度、学校事務職員に、「教頭への登用」という新しい道が開かれた。事務管理面の統括機能の強化を目的とした、教頭の複数配置である。県教委の話では指導部門も含めてということであり、給料表は、教育職（三）である。教頭になられた河合先生は、事務職員の職務内容等、全て知り尽くされた方で、どのような学校経営をされるのか大いに期待している。

今、社会は、百年に一度の世界的不況にあると言われている。多くの学校で、学校徴収金の未納が増え、私たちにとっても、本当に頭が痛い思いである。4月からの「子ども手当制度」は、「次代の社会を担う子どもの健やかな育ちを応援する」という趣旨のもとに支給される。この趣旨が活かされるとよいと思う。

平成20年に「岐阜県教育ビジョン」が策定され、重点目標の中に、「きめ細やかな教育の推進」があり、今年度の重点施策として、「少人数教育の推進等教職員配置の充実」がある。教職員の雇用体系の変化により、学校事務職員の業務も多様化してきた。実績簿の作成、チェック、時数と週案簿の照合等、教頭・教務・講師・事務職員が共通理解のもと、仕事をしていかななくてはならない。

「いじめや不登校児童生徒への対応」では、親からの電話は、ほとんど最初に事務職員が受ける。「わかりません」ではすまされない。全職員が、共通理解をもって対処しなければならない。

「開かれた学校づくり」「魅力ある学校づくり」では、学校評議員・地域の方々は、子どもたちの様子だけではなく、職員や施設面等、あらゆる面から評価をしている。来客・電話等への私たちの対応の仕方により、その学校が評価されることがある。



「安心して学べる教育環境づくり」については、限られた予算の中で、管理職と相談しながら、常に子どもたちの安全を考えた環境整備をしていかななくてはならない。教育委員会との折衝等、事務職員の腕の見せどころである。

さらに、「特別支援教育の推進」もある。特別支援に必要な備品の充実、また、特別支援就学奨励費の支給に関わる事務を、保護者や担任にわかりやすく説明できること。

岐阜県の教育ビジョンを推進していく上で、私たち事務職員は、いろいろな面で、学校教育に関わっている。給与や旅費等の、正確で迅速な事務処理はもちろんのこと、専門的分野では、もっと積極的に提案をし、学校経営に参画する事務職員でありたいと思う。

子どもたちは、学校にいる職員を、すべて「先生」という。職員室への入り方や言葉づかいを教えながら、また、職員室掃除に来る子どもたちと、ともに働きながら、「子どもの豊かな育ちを支援していきたい」と思う。

議事

議案書どおりに全て承認

【ご意見】

- ・平成22年度予算（案）一般会計について、昨年度も繰越金が多い状態である。会費の金額を検討するとか、例えば全国大会等のために使用するとかの見通しを立てるべきではないか。一年間かけて考えていただきたい。
- ・弔慰金について、一年間で区切って精算するのが本来ではないか。

以上2点について、

一般会計の研修費について、秋の研修会の講師謝礼のために計上したが、実際には講師料の必要がなかった。今年度も講師を招く計画であるが、講師が決定していないため、もう1年様子を見るということでこの予算（案）になった。今年度理事会で検討する。

②連絡

◎研修指導委員会

委員長 日吉小学校 川島 弘子さん

活動内容は、「研究構想」の中で示した5点である。みなさんのご協力をお願いしたい。

◎情報担当委員会

委員長 宮地小学校 前川美由紀さん

今まではパスワードがかかったところに郡市の HP をリンクしていたが、今後は情報の発信を重視し進めていきたい。今後はパスワードがかからないところに HP を作成していただきたい。HP の容量が2メガから10メガになった。西濃の情報をデータベースで管理したい。くわしい人がいたら協力してほしいので情報をいただきたい。

◎県事務研

理事 興文小学校 羽賀 弘子さん

全国大会、東海大会、夏季研を資質向上に役立ててほしい。また、他地区の研修会の連絡もしていくので、ぜひ参加していただきたい。「標準的職務内容」について、県教委、県校長会懇談の資料に役立てるため再度アンケートをとる。また、県事研の理事会の報告等で県の状況を知ってほしいため、是非「おんさい」に目を通していただきたい。

◎県事務研総務部

上石津中学校 若山 優子さん

会誌、会報「おんさい」、事務日誌、それぞれの編集及び発行、教育表簿の検討を行っている。教育表簿について改善があれば、事務職員が使用する部分の有無に関わらず要望していきたい。6月中に FAX 及びメールで連絡してほしい。

◎県事務研研究部

南濃中学校 小川 茂樹さん

①標準的職務内容を浸透させること、②標準的職務内容と課題別マニュアルとの整合性、③昨年度提案した「学校事務ビジョン」についてより分かりやすいビジョンにしていくことを重点とする。夏季研で「学校事務ビジョン」について提案するので参加していただきたい。

◎県事務研研修部

南中学校 羽田 博美さん

パソコン研及び夏季研の計画、運営を行う。また、マネジメント研修の計画をしている。夏季研に是非参加していただきたい。パソコン研は、今年度限りで終了し、ほかに何か研修を検討している。みなさんの意見を反映させていきたいので、ぜひ連絡をお願いしたい。